

『令和5年度「労働災害防止会議」の開催』

岩手南部森林管理署遠野支署は、国有林野事業における労働災害防止のため、毎年「労働災害防止会議」を開催しています。

今年度は、事業の最盛期を迎える前に参加者の意識を高めることで労働災害の防止に万全を期すこととし、例年より早い6月20日に会議を開催し、総勢38名の方に参加いただきました。

過去の労働災害の発生状況を見ると、令和4年度の東北森林管理局管内における請負事業体の労働災害は17件発生しており、令和2年から減少傾向ではあるものの、重大災害は毎年発生しており、引き続き労働災害の防止のため、禁止事項は絶対行わない、保護具は確実に装備する、といった基本的な事項の徹底が必要な状況です。

会議では、類似災害の発生防止のため、過去の労働災害の発生状況を参加者全員で確認しました。当支署では、令和元年以降請負事業体の労働災害は発生していないことから、無災害を継続するため、気を緩めることなく取り組むことが必要であることも確認しました。

釜石労働基準監督署の千田成人署長からは、労働災害の発生状況について、熱中症対策について、そもそも安全とは何かについて、安全のためにコストをかけることについて欧米との意識の差があることについて、などなど多岐にわたる内容をお話しいただきました。

私には、若い世代の熱中症の発生数が多いこと、その理由の一つとして、日々の体調管理不足が上げられることが印象に残りました。

また、参加された皆さんが熱心に講演を聴いている姿から、安全への意識の高さを感じました。

これから事業の最盛期を迎えることから、参加された皆様と共に、思いを新たに労働災害防止活動を行うこととしました。



【千田署長の講演：皆、熱心に聞いています。】